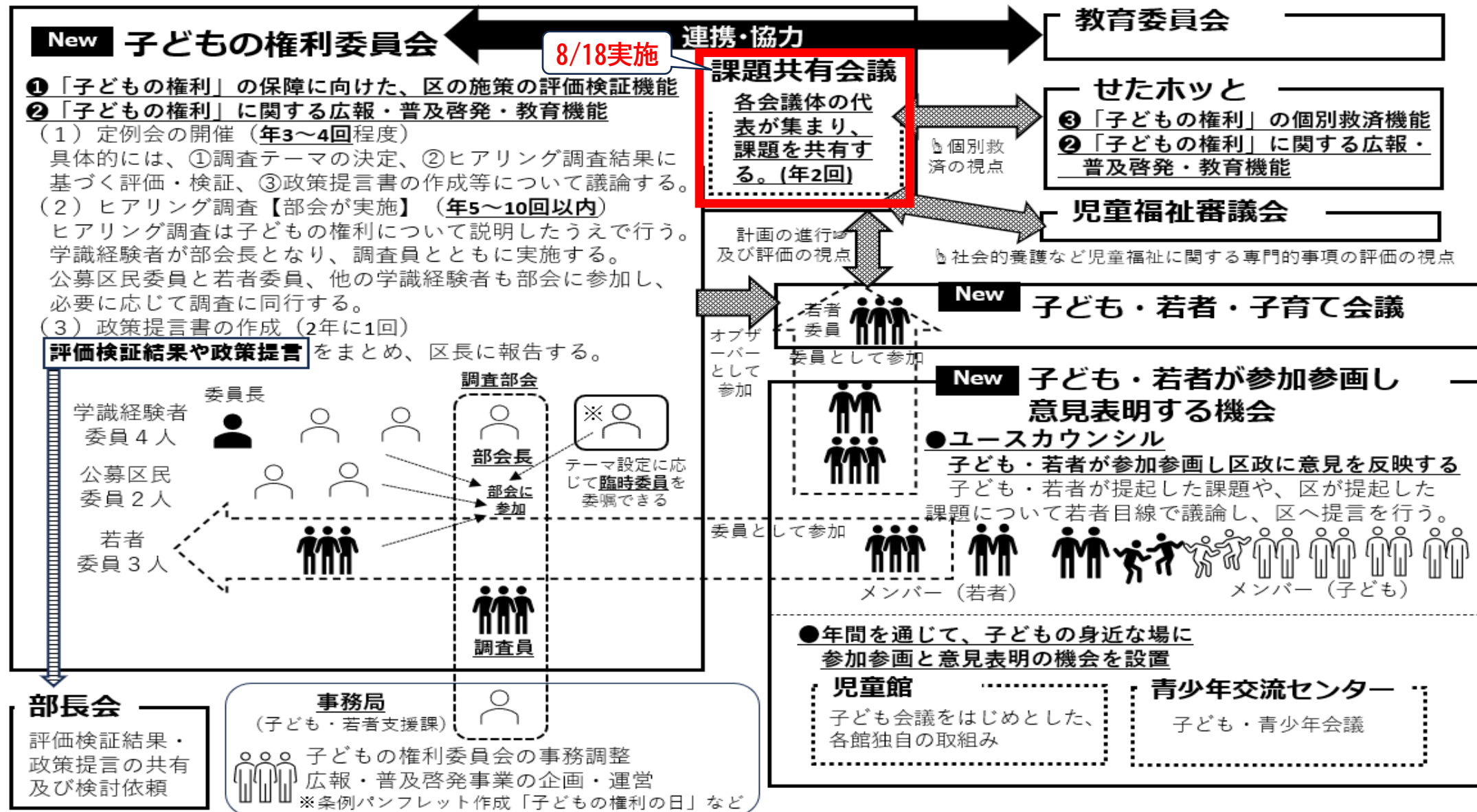


# 課題共有会議の実施結果について（報告）



## 課題共有会議（8月18日実施）出席者（敬称略）



|   | 会議           | 役職     | 氏名    |
|---|--------------|--------|-------|
| 1 | 子どもの権利委員会    | 委員長    | 森田 明美 |
| 2 | 子どもの権利委員会    | 副委員長   | 佐藤 亜樹 |
| 3 | 子どもの権利委員会    | 委員     | 高石 啓人 |
| 4 | 子どもの権利委員会    | 委員     | 中 智美  |
| 5 | 児童福祉審議会      | 委員長    | 松原 康雄 |
| 6 | 子ども・若者・子育て会議 | 会長     | 加藤 悦雄 |
| 7 | 子どもの権利擁護機関   | 代表擁護委員 | 平尾 潔  |

## 課題共有会議で出たアンケート等に関する意見①

○条例を知っている中高生が5割未満と低く、単なる周知ではなく、自分の生活にどう役立つか、困った時に相談できる仕組み、条例によって何が改善されたのかといった具体的なメリットを伝える必要がある。

○子どもは「言っても変わらない」「不利益があるかもしれない」という意識から、意見表明をためらう傾向があるのではないか。

○約3割の生徒が校則等にもやもやを抱えている。一方で「特に問題ない」という回答が多かったことについて、問題を感じていても言えない、解決への期待が持てないという背景が考えられる。

○子どもが校則等について意見を出し、改善につながる仕組みが必要。

## 課題共有会議で出たアンケート等に関する意見②

○子どもの意見で学校や施設が変わった「成功体験」を増やすことが、権利意識の向上につながるのではないかと。

○子どもが意見表明する際には、匿名性や秘密保持への信頼が非常に重要である。

○日本の学校文化や社会の中で「みんなと違うことを言わない」習慣が形成されているのではないかと。

○子どもの主体性や意見表明は中学生になって突然身につくものではなく、保育園、幼稚園、小学校からの積み重ねが重要。

# 課題共有会議で出た「提言書」に関する意見

- 子どもの権利条例の認知度向上と具体的な活用イメージの提示が必要
- 子どもの意見表明権が実際に機能する仕組みづくりがあると良い
- 学校や施設で安心して意見を言える環境整備が必要
- 相談・意見表明における秘密保持の徹底が重要
- 乳幼児期から継続した権利教育・主体性の育成が重要
- 子どもの意見が実際に反映された成功事例の発信が必要
- 保護者や子どもに関わる大人への周知・理解促進が必要

